



ニュースレター

市民が拓く自然エネルギーの未来

2015年7月
No.35

大阪府内初！

行政と連携した泉大津汐見市民共同発電所 完成



2015. 5. 25 点灯式



Contents

1 大阪府内初！行政と連携した市民共同発電所.....	1
2 泉大津汐見市民共同発電所点灯式.....	2-3
3 泉大津汐見市民共同発電所、完成までのあゆみ.....	4-5
4 福島あたみまち市民共同発電所の完成を祝う会.....	6-7
5 完成を祝う会と被災地の見学会に参加して.....	8-9
6 【報告】市民共同発電所の発電実績	10-11
7 総会報告とお知らせ.....	12

発行 自然エネルギー市民の会
 発行責任者 事務局長 早川 光俊
 連絡先 〒540-0026
 大阪市中央区内本町 2-1-19-470
 Tel 06-6910-6301 Fax 06-6910-6302
 Email : wind@parep.org
 URL : <http://www.parep.org/>

泉大津汐見市民共同発電所 点灯式

みんなの思いがかたちになった

5月25日に出資者、関係者、PARE 会員が参加して現地で点灯式を行いました。点灯式では和田武代表が主催者挨拶を行い、つづいて長谷誠次泉大津市都市政策部長が市長メッセージを紹介されました。出資者を代表して前市議会議長の田中一吉さん、若者代表として近藤万里さんからご挨拶をいただきました。工事を担当されたエコテック株式会社の林敏秋さんから発電所の説明をしていただき、最後に記念撮影をしました。

点灯式は天気にも恵まれ、パワーコンディショナーを自立運転させマイクの電源として活用しました。

和田武／代表の主催者挨拶

「全国でも先駆的、泉大津モデルと呼びたい」



本日は、多数、点灯式にご参加いただきありがとうございます。今日は、いい天気になり、こうして点灯式を迎えられ本当に喜んでおります。

市民共同発電所は全国に600カ所以上ありますが、この泉大津汐見市民

発電所の方式は、市が市民団体に対して無償で土地を貸出し、市民が出資して実現した全国でもめずらしい非常に先駆的なモデルです。私は「泉大津モデル」と呼びたいと思います。再生可能エネルギー普及の優れたモデルとしてほかにも広げていければと思っています。

再生可能エネルギーは地域の資源です。地域の主体である自治体や市民が中心となって取り組むのに適したエネルギーです。そして、その利益が市民や地域に還元されるという方式が、再生可能エネルギーの普及を進めていきます。泉大津は、当初から市民共同発電所の事業主体の募集という方式で、大変意義深いとりくみでした。

市議会や市の関係の職員の皆さまには大変な努力をしていただいたことに感謝申し上げます。多くの市民の方にもご協力いただき41名の市民が出資されました。また、発電所建設にあたって、樹木の剪定やフェンスの設置などにご協力いただいた市民の会会員やみなさま、ありがとうございました。

多くの人々の努力が実って、今日の点灯式を迎えることができましたこと、みなさんとともにお祝いし、喜び合いたいと思います

長谷誠次さん／泉大津市都市政策部長が市長メッセージ紹介「大阪府民のみならず全国に広がることを願う」



本日、ここに、泉大津汐見市民共同発電所の完成を迎えることができましたことは、大変喜ばしいことでもあります。また、市民と行政が一体となつてとりくむ市民共同発電所としては大阪府内で初めてとなるとりくみであり、この事業は本市

にとって誇りに感じているところでございます。

今年の2月27日から出資者を募集いたしまして、市民をはじめ多くの方から出資が寄せられ、わずか2カ月足らずで目標を達成することができましたことは、出資者の方々のご理解・ご協力のもとより、市民と行政の橋渡しとなつていただいたNPO法人自然エネルギー市民共同発電のメンバーのみなさんのご助力をいただいた結果であり、この場をお借りして御礼申し上げます。

泉大津汐見市民共同発電事業を契機として市民のみなさんに地球温暖化、環境、エネルギーについてより身近に感じていただくことはもとより、この地域環境を守る素晴らしい事業が、大阪府民のみならず全国に広がることを願うものであります。

今後も市民とNPO法人自然エネルギー市民共同発電のみなさまと市が連携して自然エネルギーの普及促進や啓発に積極的にとりくんでいきたいと考えております。

今後とも、みなさんのより一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。簡単ではございますが私のご挨拶とさせていただきます。

田中一吉さん／出資者・前市議会議員

「地域活性化、本当の意味での地域創成につながれば」



4月30日まで泉大津の市会議員をしておりますが、引退をして、今はフリーでちょっと緊張感がほぐれたところです。横浜にいたのですが、ぜひ、点灯式には参加したいと思って帰って来ました。

今日は現職議員の田立さん、高橋さん、森下さんの3名の議員さんがおられるなかで私が挨拶するのは非常におこがましいのですが、この間の経過もございますので、一言ご挨拶させていただきます。

私が議会の一般質問で、市民共同による発電を今やっていないといけないのではと質問したことが、こここで展開できるとは夢にも思いませんでした。今日、太陽光発電でマイクをならし、扇風機が回っているのを見て実現できたことを実感しているところです。

泉大津市は15年前から市民共同による発電をやるという方針がでていましたが、長いことあたたためており、なかなか実現できませんでした。しかし、福島原発事故を目の当たりにして、エネルギー転換をしないと日本がもたないということから、そういう観点で前にすすんでいったと思っています。

全国で市民共同発電所が600カ所以上できているとのことですが、この発電所は行政が主導して実現にこぎつけたという、行政の役割が大きいと思っています。

今日が1号店の開店ですが、2号、3号と連続で盛り上げていくことが大事かなと思っています。一市民の立場からですが、発電によって市民がうるおい、地域が活性化し、本当の意味での地域創成につながっていけば嬉しいなと思っています。

私もこれから一市民としてがんばって行きたいと思っています。本日は本当におめでとうございます。

近藤万里さん／出資者・若者代表として

「エネルギーのあり方を深く考えるキッカケに」

関係者のみなさまに、無事にこの日を迎えられるまでこ



とをお祝い申し上げます。おめでとうございます。私は石油や石炭に依存したエネルギーを使っていくということに対して、採掘地の自然環境とか、地球規模の気候変動に与える影響を懸念しています。また、原子力発電所も安全性や核廃棄物の処

理の点で非常に大きな問題を抱えていると思っています。

個人でできることとして 節電・省エネには私も心がけており、そういうことも大切だと思いますが、エネルギーを使いつづけていく以上、それだけでは不十分、限界があるなと感じていました。こんななか、泉大津で市民が参加してすすめられている自然エネルギーの発電所計画がある、そして少額から出資して参加できると聞き、わずかですが参加させていただきました。

出資を通して、市民共同発電所を知り、自分たちでエネルギーを作るということに関して身近なこととして捉えるきっかけをいただきました。

これから発電所の稼働を見守りながら、エネルギーのありかたについてもっと深く考えていきたいと思っています。自然と調和した豊かな社会を次世代に残すような希望のある事業の出発をみなさんと一緒に見届けられたことを嬉しく思います。

本日までご尽力されました関係者のみなさまに感謝申し上げます。

林敏秋さん／工事業業者・エコテック株式会社

パネルはソーラーフロンティア製、パワコンは海に近いので倉庫を建てて収納した。倉庫の温度が上がるとパワコ



ンには良くないので、倉庫内が30℃以上になると自動的に換気扇が回るようになっている。パワコンは9台あり自立運転でそれぞれから1.5kW、合計13.5kWの電気を取り出すことができる。

など、発電所の説明と発電所内を案内していただきました。

泉大津汐見市民共同発電所 完成までのあゆみ

2014年

9月24日(水)～10月1日(水)

泉大津市が「泉大津市市民共同発電所 運営主体」を公募。

NPO 自然エネルギー市民共同発電が応募しました。

10月17日(金) 選考の結果、「泉大津市市民共同発電所の運営主体」に選定されました。

10月18日(土) 第1回「自然エネルギー学校・せんしゅう」を開催 参加者：23名

「再生可能エネルギーが拓く未来～市民共同発電所が果たす役割～」

和田武(自然エネルギー市民の会代表、元立命館大学教授)

豊田陽介(気候ネットワーク主任研究員、PARE 運営委員)

場所は、第1回～4回ともテクスピア大阪(南海泉大津駅前)

11月9日(日) 第2回「自然エネルギー学校・せんしゅう」を開催 参加者：22名

「広がるおひさま発電所、みんなが参加できる市民共同発電所」

早川光俊(弁護士、NPO 自然エネルギー市民共同発電専務理事)

林敏秋さん((株)エコテック代表取締役)

清水順子さん(サークルおてんとさん・地域未来エネルギー奈良理事長)

12月6日(土) 第3回「自然エネルギー学校・せんしゅう」を開催 参加者：18名

「市民共同発電のつくり方」

豊田陽介(気候ネットワーク主任研究員、PARE 運営委員)

井上保子さん(非営利型株式会社宝塚すみれ発電代表取締役)

ワークショップ

- ・市民の力で市民共同発電所をつくるために

- ・泉大津環境基金を有効に活用するために

12月26日(金) 泉大津市と「泉大津市市民共同発電所の

運営に関する協定書」を締結



ワークショップの様子

2015年

1月10日(土) 第4回「自然エネルギー学校・せんしゅう」を開催 参加者：25名

「自然エネルギーを地域のために活かす仕組みづくり」

竹歳 一紀さん(桃山学院大学経済学部教授)

仁木佳男さん(一般社団法人 南紀自然エネルギー)

井上博成さん(京都大学大学院経済学研究科博士課程)

1月16日(金)～17日(土)

課外講座「岡山県西栗倉村、

岡山市立建部保育園」の見学 参加者：17名

- ・岡山県西栗倉村のバイオマス、小水力、

- 太陽光発電を学ぶ

- ・岡山市と連携した市民共同太陽光発電所を学ぶ

1月30日(金) 「行政財産使用許可」を得る

2月1日(月) 「占有許可証」を得る



課外講座、西栗倉村の小水力発電施設

2月27日(金)～4月20日(月) 出資募集
 3月3日(火) 出資説明会 午後と夜 テクスピア大阪
 3月17日(水) 垣根の伐採

垣根の伐採を、ボランティアで行いました。
 今年一番の気温、雲一つない晴天。暑さで、へとへとに。
 植樹から約40年、3m程度に育ったカイヅカイブキの垣根を
 50m程度、高さ1.2mに切りそろえました。



垣根の伐採チーム、達成感あり！！

4月28日(火) 系統連系・売電開始
 4月30日(木) 柵作り

ボランティアのみなさんのウデが上がりました。晴天の下、汗をかきかきの作業、前回の生垣の伐採作業の経験から下見、準備をしっかりとったので、2時間程度で完成しました。



作業も手馴れてきました。

5月22日(金) 手作り看板を設置
 5月25日(月) 点灯式

この他にも

- ・ 泉大津市の全域に自然エネルギー学校の新聞折込チラシを4紙に約2万部折込
- ・ 泉大津駅に自然エネルギー学校と市民共同発電所のポスターを貼り出し
- ・ 市役所ロビーで市民共同発電所のとりくみについてのパネル展示

泉大津汐見市民共同発電所の概要

設置場所	泉大津市汐見町98-4 汐見ポンプ場の空地
パネル機種	ソーラーフロンティア
定格出力	49.9kW 売電先 関西電力株式会社
総事業費	1,920万円の全額を市民出資で賄いました。 泉大津市民など市民41名が資金を出し合いました。
出資配当	配当率1.2%/年、元本は20年間の均等返済
泉大津環境基金	売電収入の2%を泉大津自然エネルギー普及基金として積み立てます。20年間の積立額は約70万円。基金の運用は泉大津市や(仮称)泉大津自然エネルギー市民の会と協議します。例えば市民や子どもたちを対象とした再生可能エネルギーや地球温暖化などについての講演会や学習会を開催するなどが考えられます。
自立運転機能	災害時には自立運転ができ、最大13.5kWの電気を取り出せます。 (パワーコンディショナー1台1.5kWの電力×9台)。

全国各地から参加して、福島あたみまち市民共同発電所の完成を祝う会

やった！できた！200kWの市民共同発電所

4月18日(土)に福島あたみまち市民共同発電所(210kW)の完成を祝う会を、福島県郡山市熱海町石筵の発電所で行いました。出資者、農民連の方々、CASAや自然エネルギー市民の会の会員が参加しました。市民共同発電所(奥の方の半分程度)の手前には農民連の石筵発電所(300kW)も完成しました。

19日(日)には、亀田さん(農民連)の案内で原発被災地の視察・見学を行いました。



祝う会の挨拶より

自然エネルギー市民の会代表 和田武さん

今日は多くの皆さまにご参加いただきありがとうございます。

原発事故を経験し、原発をなくして、再エネ中心の社会を実現することが本当に重要だ。再エネは太陽光、風力をももちろん増やす必要があるが、これから日本が重視すべきはバイオマスだ。特に森林資源を使った木質バイオマス発電を増やしていくことが重要と認識している。

調達価格等算定委員会の委員を3年やってきた。任期終了で退任したが、私が主張してきた2000kW未満の小規模の木質バイオマスの買取価格が実現した。日本では間伐材が一切利用されていないが、小規模バイオマスの買取価格が新たにできたことで、市町村単位、地域主体が取り組める制度となった。木質バイオマスは林業の活性化、地域の活性化に有効な手段だ。

これからの地域の発展には太陽、風力、そして他の地域主体と連携してバイオマスも含めたトータルで考えていく必要がある。

郡山地方農民連会長 宗像孝さん

農民連は農業を守ることを中心課題に、今から20数年前に全国的な運動があり、郡山地方農民連もその当時にできた。

今、農業がつぶされようとしている。ご存じのように農協の解体も始まった。政府は、農協中央会が地方の自主性を尊重していない、だから地方の独自性をだすために中央会の解体が必要だ、という屁理屈だ。ところが農協、農業をダメにしてきたのは政府の農業政策ではないか。昨年の生産者米価は8000円(玄米60kg)だった。これはペットボトルに詰めると60円、水よりはるかに安い価格だ。このままでは農家は主食である米も作れなくなってしまう。

2011.3.11、原発事故から農民連は太陽光発電をすすめている。生業訴訟は400名ではじまり現在は4000人の原告でたたかっており3年になろうとしている。裁判は原告だけでは難しい、サポーターになって、みなさんのご支援をお願いしたい。



交流会のようす

- ◇福島県農民連の太陽光発電は県内で 2000kW になった。予定を含めると 5000kW を超え、最終的には 6000kW を達成しようという計画だ。農民連の構成員 1400 名の電力を電力会社にお世話にならないで賄える規模にしたい。
- ◇住み慣れた土地を追い出されて帰れない。今、2カ所で避難生活をしている。原発をなくす運動は大変だが、私は福井の原発集会、川内原発の集会にも参加してきた。原発ゼロが国民の声だと実感している。
- ◇私たちも、自然エネルギーの普及をしようと、自然エネルギーねやがわ市民の会をつくった。2号機まで点灯式をした。3、4号機も作りたいが候補地に苦労している。ささやかな寝屋川のとりくみではあるが、このような活動が日本全国に広がればよいと思う。
- ◇脱原発、福島復興のために何らかのことをしたいと、ずっと思ってきた。昨年、太陽光発電の話があり、土地を貸すことでも原発をなくす運動ができるのだと思った。みなさんの力が結集して完成させることができた。脱原発の一つの力になればと思う。
- ◇夫に連れられてここに来た。今日、初めて出資したと聞いた。半分だせとは言わないよね。私は福島県出身で、少しではあるが、係れてうれしく思っている。
- ◇心の中では原発は人類と共存できないと思っていた。しかし、安全神話に取りつかれ 3.11 までは原発反対の運動には参加してこなかった。2013 年に地元で原発ゼロの会を立ち上げた、事務局長としてがんばっている。
- ◇関電の神戸支店前の行動に欠かさず参加し 146 回にもなった。高浜原発の判決のときには福井地裁にも行った。司法は生きてると実感した。
- ◇餅つきで、みなさんに喜んでもらえてよかった。福井地裁の判決は、本当にうれしくなった。別の裁判長で

- も出してくれないかと思う。
- ◇45 年前から原発の危険性を訴え、脱原発の活動をしてきた。損害賠償の交渉では東電本社まで行くが、いつも腹立てて帰ってくる。
- ◇原発は大反対だ。わが家の母屋と納屋に太陽光つけた。
- ◇今まで生きてきて、初の出資だ。言葉だけでなく、太陽光発電所という形になった。
- ◇11 年前にここに来た。昔から原発にはいい思いはない。4 年前の 3 月、自分はどうすればいいのかと思い、農民連に入った。
- ◇農民連の事務局に入って 1 年、最初に言われたのは合同会社を作って、だった。何を言ってるのかと思った。発電所を目の当りにして、将来は発電所で羊飼いをしたい。
- ◇時間がたって、落ち着いたら、みなさんにも福島の米を食べてほしい。
- ◇教員していたが、やめた後、何をするのか考えていた。教えることが楽しく、自然エネルギー市民の会に入って出前授業やイベントで紙芝居や工作をして、子どもたちに脱原発と自然エネルギーを教えている。
- ◇市民共同発電所ってすごいと思った。4 年前に北海道の伊達市に移住した。移住してすぐに金曜デモに参加した。参加者は 17~18 人だが、頑張っている。
- ◇今日、明日と休暇をとって参加した。出身は大阪、生まれは真庭市、自分の故郷がこんなに注目されるようになるとは思わなかった。
- ◇ドイツでは、はじめは外からきた業者が再エネの開発をして、10 年くらいたった時から、地域が中心になって普及がすすんだと聞いた。福島では違う形が生まれている。勉強になった。
- ◇ここは資源が豊か、上から降ってくるものはすべて受け止めている。今度はバイオマス発電に挑戦して、地域の雇用を増やし、老人を大切にす地域にしたい。
- ◇12 万人もの人が住めなくなった公害事件は過去にない。原発事故が起こったとき、何ができるのかと悩んだ。農民連から太陽光発電の話が持ち込まれ、これだと思った。「あたままち」も「りょうぜん」も出資者と自然エネルギー市民の会は 20 年間、福島と係わる仕組みだ。自然エネルギーは地域のエネルギーだ。地域に貢献し、地域の方々と一緒にこれからも進めていきたい。

完成を祝う会と被災地の見学会に参加して

共同の力、優しさ、悲しみ、こみあげる怒り

PARE は、現地の人達との合意の上に共同発電所を作っています。

福島農民連は、原発事故を契機に、太陽光発電所の設置に力を入れています。国からの補助金や銀行からの融資で農民連の所有による太陽光発電所は、福島県内に5000kW を超え、6000kW まで増やす方針を持っているとのことです。

17日、全員で発電所に向かう

12時30分、郡山駅に集合し、バスであたままち市民共同発電所へ向かう。少し早く着いたので太陽光パネルの周りを見て回る。コンクリートの土台が立派。農民連のパネルの数の方がいつもながら多い。



早く着いたので発電所を見学

大倉さんが持ってきた測定器で放射能を測定する。草の生えているところの線量が高い。0.2 マイクロシーベルトあった。

セレモニー開始、午後2時、風強し

和田先生、農民連の宗像さん、地主の安達さん、工事業者の和田装備の和田社長の挨拶のあとテープカット。



そして餅つき。パネルのそばに大きな臼が準備してあった。強風の中で餅つき 78歳の安田大介さんが最後に力強く搗きあげた。大根餅（大根の千切りを炒め炊きしたもので、餅をくるんで食べる）初めて、うまい。きなこもちも食べた。2個ずつ食べ、夜の交流会が心配。



安田大介さんの餅の仕上げ

出資者、農民連、PAREの交流会、午後4時

石筵集会所に場所を移して交流会、農民連の方々が多数参加、PAREは16人。

お茶とお茶請けに山菜と漬物。わらびの煮物、芋づるの煮物、紫蘇寒天、ふきの煮物、漬物炒め、漬物が出た。いずれも山盛り。どれも薄味で美味い。煮物材料は全て昨春とれたもので塩漬け保存してあったものを戻して作っている。色鮮やかで柔らかく美味しかった。

ホテル着、交流会開始、午後6時30分

5時すぎにホテルに着き、まずは風呂休憩。6時30分から交流会（宴会）が始まった。馬刺し、人参のイカ漬けが美味しかった。酔っ払い2次会の部屋を出たのは11時過ぎだったと思う。

18日 浜通りの被災地へ、8時出発

バスで国道6号線を北上し浜通りの様子を車窓から見る。広大な地域が耕作不可能に。手入れの行き届いた美しい家々に人の気配がないのが悲しい。30キロ圏内は、宿泊禁止だけど、昼間は出入りが自由。

線量は草むらでは、0.2 マイクロシーベルトを超える。

年間1ミリシーベルトを超えること確実だ。

国道6号線は開通したが、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町の間のおよそ14キロの区間は、バイクや自転車、歩行者の通行は認められず、車を途中で停車して外に出ることが出来ない区間だ。



人がいない街、バスの中から撮影

富岡町に近づくにつれ線量は上がり続け、バス車内で0.3、0.4、0.5マイクロシーベルトと上がってゆく。何も見えず匂いもしないので不気味。桜の花が満開で、梨の白い花が咲き誇っているのも虚しい。車の外に出てはいけな地域境界で警察官が警備をしている。4時間交代で、若い警察官を配しているらしい。6号線以外の道から6号線に合流する場所はガードマンが立っていたがここも危険地域に違いない。ガードマンは4時間交代ではなさそうだ。それに、ガードマンの数の方が多い。

人が住まない家、閉鎖された学校が痛々しい。学校の校庭には除染作業員の宿泊施設があった。

双葉町のメイン道路にある「原子力が開く明るい未来」のアーチを右に見ながら更に北上。津波にやられた広大な農地が広がる。壊れた家がまだ残る。

浪江町請戸地区には、東北電力への感謝の碑が建っている。東北電力がそこに原発を作るために、多額の寄付をし、それで農地への灌漑が改良されたことへの感謝の意が書いてあった。東北電力は、この地域を中心に68



感謝の碑、津波で流されたが元通りに設置し直したとのこと

億の作業費をつぎ込んでいたそうで、原発事故を起こした東電に対して、賠償を要求すると言っていたとのことだが、取りやめたらしい。

南相馬市の、亀田さん（今回バスで我々を案内してくれた方、南相馬の農民連会長であった）の自宅を案内してもらった。庭に黒い除染物質が入った袋が30~40個置いてある。この袋を置く場所を指定した人から、除染していくことになっているらしい。この付近の家の庭には、黒い袋が何十個も置いてある。



亀田さん宅の除染袋

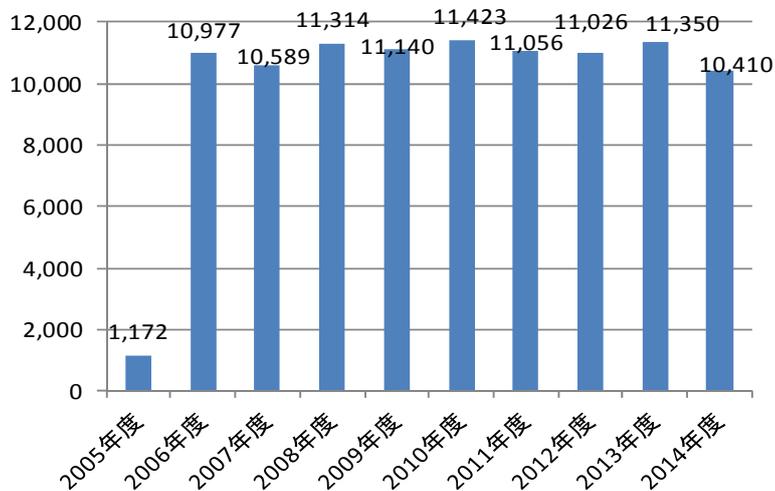
連休中は特別に15泊16日以内の宿泊許可を出すので申し出られたし、という旨の文書が配布されている。亀田さんの家も、時々掃除しに帰ってきているそうだが、地震により水道配管に支障があり最低限の水回りだけ補修してもらっているという。種芋などを狙った猪により、納屋や農機具置き場の戸が破られていて、荒廃に拍車をかけている。4年も使われなかったたくさんの農機具が錆び付いているのも悲しい。

正面右手のトコの下当たりがホットスポットで線量が高かった。0.3~0.5マイクロシーベルトを示した。0.23マイクロシーベルトで年間1シーベルトになるのだから、ここに昼間は入ってもいいとか16日間滞在しても極めて少ない影響しかない、と言えるのだろうか？放射性物質は粒子の形で土や植物動物の細胞内に取り込まれている。土に含まれたものは、ホコリとなって洗濯物に付着し、鼻から侵入し、皮膚からさえ進入する。こんなところに入ってもいいという許可を与えては、いけないのではないかと立ち入り禁止措置の解除は、不当であるという訴訟が起こされている。

（北川かずみ）

市民共同発電所の発電実績

ポッポおひさま発電所（発電開始 2006. 2）



事業主体:NPO 法人自然エネルギー市民共同発電

モジュール	京セラ
設備容量	10.64kW
計画	設備利用率 12.0%
実績	12.6% (累計 2015.4)
場所	東大阪市 保育園屋根
総事業費	約 1200 万円
資金調達	1 口 10 万円 建設協力者 35 名 寄付 250 名以上
配当・元本返済	無利子 20 年の均等返済

2014年度の発電量は10,410 kWhで昨年を940kWh下回りました。8月が悪天候で大阪市の全天日射量の前年比が96%であったこと、またパワーコンディショナーが10月末に2台のうちの1台が壊れ、約1カ月間1台の稼働であったことなどから前年実績を下回りました。設備利用率は累計で12.6%。

せのがわおひさま発電所（発電開始 2013. 5）

事業主体:有限責任事業組合せのがわ共同発電

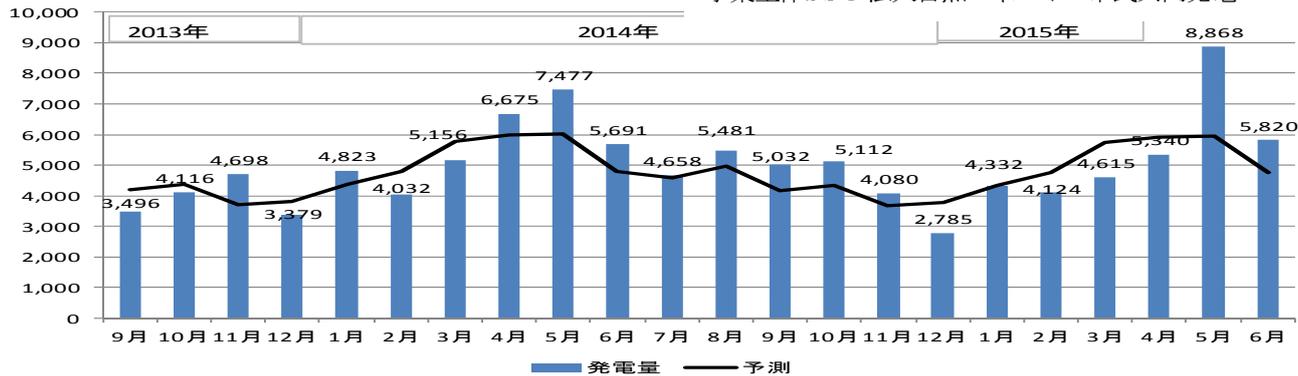


モジュール	ソーラーフロンティア
設備容量	30.24kW
計画	6 月末まで 64,412kWh
実績	81,915 kWh (127%) 設備利用率 14.5%

場所	広島市の未耕作農地を一部転用
総事業費	約 1200 万円
資金調達	NPO が 430 万円出資、430 万円は 1 口 10 万円で建設協力者 24 名から借入。
利息	利子年 1%
元本返済	5 年毎の返済

福島りょうぜん市民共同発電所（発電開始 2013. 9）

事業主体:NPO 法人自然エネルギー市民共同発電



モジュール	Qセルズ
設備容量	50.50kW
計画	6月末まで 104,853kWh
実績	109,790kWh (105%) 設備利用率 13.2%

場所	福島県伊達市の雑種地
総事業費	約 2000 万円
資金調達	全額市民出資、1 口 10 万円、出資者 63 名。
配当、元本返済	配当年 1.2% 元本は 20 年の均等返済

福島あたままち市民共同発電所（発電開始 2015. 2）

(参考)郡山市の日照時間(h)

	期間	発電日数	予測	売電量	達成率	設備利用率	(参考)郡山市の日照時間(h)				
							月	当年度	前年	前年比	
2014年度	3月	2/19-3/10	20	12,592	9,779	78%	9.7%	2月	134.4	122.0	81%
2014年度合計			20	12,592	9,779	78%	9.7%		134.4	122.0	81%
2015年度	4月	3/11-4/9	30	23,265	19,965	86%	13.2%	3月	191.3	166.5	115%
	5月	4/10-5/12	33	24,795	33,402	135%	20.1%	4月	184.1	248.9	74%
	6月	5/13-6/9	28	20,986	28,756	137%	20.4%	5月	262.0	216.7	121%
	7月	6/10-7/9	30	20,782	19,931	96%	13.2%	6月	145.3	144.0	101%
2015年度合計			121	89,829	102,054	114%	16.7%		782.7	776.1	101%
累計			141	102,421	111,833	109%	15.7%		917.1	898.1	102%

※2014年3月の予測は2月10日間、3月10日間で予測

※日照時間は発電期間が前月の方が長いので、気象庁データより前月の実績を入れてます。

※発電予測は月初めから月末の発電量予測、売電量は東北電力「購入電力量」の通知より

※変換効率は92%で計算しています。

モジュール	カナディアンソーラー
設備容量	210.00kW
計画	7月まで 102,421kWh
実績	111,833kWh (109%) 設備利用率 15.7%
場所	福島県郡山市の未耕作畑を一部転用
総事業費	約 7800 万円
資金調達	一部銀行借入、5800 万円を市民出資で、出資者 128 名
配当・元本返済	配当年 1.2%、20 年の均等返済

事業主体:合同会社福島あたままち市民共同発電

泉大津汐見市民共同発電所（発電開始 2015. 4）

【参考】大阪市の
全日射量の月平均(Mj/m²)

	期間	発電日数	予測	売電量	達成率	設備利用率	全日射量の月平均(Mj/m ²)				
							当年度	前年	前年比		
2015年	5月	4/28-5/18	21	6,110	6,448	106%	24.4%	5月	21.9	21.4	102%
	6月	5/19-6/15	28	5,469	6,845	125%	19.4%	6月	16.6	18.6	89%
	7月	6/16-7/14	29	6,134	5,663	92%	15.5%	7月	16.4	19.3	85%
累計			78	17,713	18,956	107%	19.3%		18.4	19.8	92.7%

※全日射量は気象庁データより大阪市の月平均

※発電予測は月初めから月末の発電量予測、
売電量は関西電力「購入電力量」の通知より

※2015.7月の
全日射量は15日現在

モジュール	ソーラーフロンティア
設備容量	49.92kW
計画	7月まで 17,713kWh
実績	18,956kWh (107%) 設備利用率 19.3%
場所	泉大津市のポンプ場空地
総事業費	約 1920 万円
資金調達	全額を市民出資で、出資者 41 名
配当・元本返済	配当年 1.2%、20 年の均等返済

事業主体:NPO 法人自然エネルギー市民共同発電

7月11日(土)、自然エネルギー市民の会は、学習講演会「再生可能エネルギーのさらなる普及をめざし～再エネ発電システム問題と小規模バイオマスを考える～」と第11回通常総会を開催しました。

学習講演会は、関西大学システム理工学部准教授の安田陽さんが「再生可能エネルギーの系統連系問題を考える」をテーマに講演し、続いて当会の和田武代表が「里山資源を活かす小規模バイオマス発電」をテーマに講演されました。

第11回通常総会は、議長選出、議事録署名人の指名の後、早川事務局長より第1号議案「2014年度事業報告及び決算」、安本監事より監査報告、早川事務局長より第2号議案「2015年度事業計画及び予算」について報告がなされました。

質疑意見交換では、「長野県上田市のNPO法人が取り組んでいる太陽光発電の『相乗りくん』のようなことが大阪でもできないか。」「パナソニックが、パネル状の装置を屋根に敷き詰めて、太陽光で水を分解し水素を得る仕組みを開発するとニュースになったが、そういう新しい技術の勉強会も開催してほしい。」「2002年に太陽光パネルを自宅に設置し、2011年3月11日の震災、原発事故を契機に2011年9月より『発電所だより』を毎月1700部発行している、町会には個別ポスティング、また医療生協の支部ニュースや平和委員会にも配布をしてもらっている、地域で話題になっている。」などの質疑意見がありました。

早川事務局長より、答弁のあと採決を行い、第1号議案、第2号議案とも全員一致で採択されました。



総会のようす

お知らせ

出前授業に
伺います。

ペットボトルソーラーカー工作



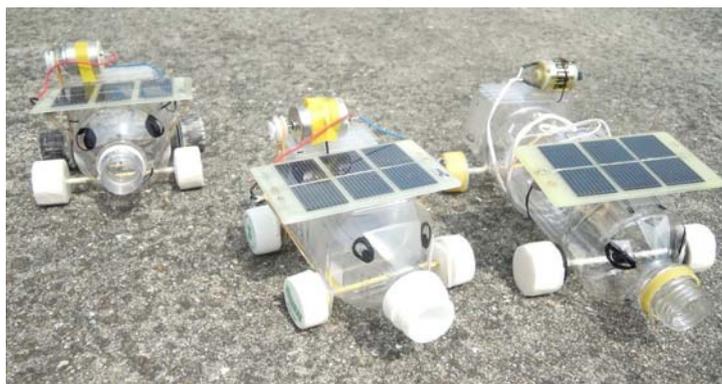
太陽の光を受けて、勢いよく走ります。
自然エネルギーを体感する環境教育に最適です。

対 象：小学4～6年生

授業時間：2時間

- ・自然エネルギーや温暖化のお話
- ・作り方の説明
- ・工作
- ・授業のまとめ

子どもたちが準備するものは、
500ml以下ペットボトル1本とキャップ4個



費 用：工作をする方一人当たり1500円と講師交通費

※費用等の詳細は自然エネルギー市民の会までお問合せください。

電話 06-6910-6301(平日10時30分～5時まで)

E-mail wind@parep.org